

令和2年度 あらかわ俳句吟行会(第1回)

対象	区内在住・在学・在勤の方(中学生以上)
投句数	53句
投句者数	28人
兼題	当季雑詠
選者	佐々木 忠利氏 (荒川区俳句連盟会長)
期間	令和2年6月1日(月曜)から7月4日(土曜)

特選	脚組めば悪女に見ゆるサングラス	小澤 結奈さん
選評	サングラスは本来強い紫外線から目を守るものであるが、中にはお洒落に用いられている方もいる。作者は脚を組む事に依ってご自分が悪女と思い込んでいる処にこの句の面白さがある。取り合わせの妙、しっかりとした諷詠、動かぬ季語に惹かれた。(荒川区俳句連盟会長・佐々木忠利氏)	
入選	木洩れ日を雲に宿す七変化	大矢 幹夫さん
	駅名のロゴは猫形夏の空	横須賀 智子さん
	庁舎二階まだ灯りをり月涼し	田中 礼子さん
	妣漬けし梅酒の琥珀深みゆく	鈴木 真理子さん
	白球を握りて睨む梅雨の空	水田 京二さん

令和2年度 あらかわ俳句吟行会(第2回)～お家で俳句～

対象	区内在住・在学・在勤の方
投句数	2,576句(一般の部:166句、中学生の部:941句、小学生の部:1,469句)
投句者数	1,419人(一般の部:44人、中学生の部:610人、小学生の部:765人)
兼題	夏または秋の季語
選者	佐々木 忠利氏 (荒川区俳句連盟会長)ほか
期間	令和2年9月21日(月曜)から10月24日(土曜)

一般の部	特選	里山の畦道染める彼岸花	齊藤 輝男さん
	選評	集落、人里に隣接した山があり、田圃と田圃の境界に土を盛り上げて作った畦道を赤く染めるように彼岸花が咲いている。率直に詠じているためか、しっかりとした映像が心に伝わってくる。(荒川区俳句連盟会長・佐々木忠利氏)	
	入選	砂壁の二畳の茶室夏椿	吉田 美智子さん
		夕立や音符ちらばるトタン屋根	中嶋 雅隆さん
		梅雨明けの空の広さよ握飯	博堂さん
		簾ごし人影久し過疎の村	小池 恵美子さん
変わりなき日々こそよけれとろろ汁		高仲 絹さん	
	味噌つ歯の笑顔弾ける水遊び	諏訪 芳江さん	

中学生の部	特選	湖に咲く色とりどりの揚げ花火	第四中学校3年	栗原 萌香さん
	選評	夜空に妍を競う揚げ花火は絵模様の技巧を楽しむ仕掛け花火である。その快音のさわやかさを堪能することができる。納涼の景物でもあるが、色とりどりの色彩豊かな花火が湖に映えている印象深い一句。(佐々木忠利氏)		
	入選	原爆忌あの日の事は忘れない	第一中学校1年	諸澄 玲音さん
夏休み課題に追われる最終日		第一中学校3年	佐々木 優亜さん	
滝落ちる音森林に響する		第四中学校1年	井上 あけみさん	
草むらを飛び出して来る雨蛙		第四中学校3年	南 龍一さん	
天の川いつか巡り会う君と僕		原中学校3年	橋本 桃花さん	

小学生の部	特選	紅葉ふむ心地よき音聞こえる	第三峡田小学校5年	横山 実加子さん
	選評	枝を離れて散る葉も、既に地に落ち風に誘われて飛ぶ葉も落葉である。降り積もった紅葉の落葉を踏む「かさかさ」と音の心地よさを詠んでおり、実感された句に心地良き音がこちらにまで伝わってくる。(佐々木忠利氏)		
	入選	カブトムシけんしのようにつのをだす	汐入東小学校4年	鴨崎 潤久さん
		もうさいごせんこうはなびおちるまで	第九峡田小学校1年	山田 傳心さん
		見えぬてき去ればとねがう夏の夕	第九峡田小学校4年	靱井 映七さん
		思い出がたくさん広がる夏の空	第二日暮里小学校6年	長沼 花依さん
なつのそらたいようざりもえている		第六日暮里小学校2年	本木 麻由花さん	
	ソーダ水がつきみたいにリズムカル	第六日暮里小学校4年	越戸 優佳さん	